

無料立ち読み版

藤田茂男の流儀

～盆栽上達法～



本書の使い方

本書は、盆栽の主要な6つのジャンルについて紹介し、その私がお勧めする素材をピックアップして、植え方から日常の管理方法までをビジュアル的に解説しています。

- ・第2章 草もの(シノブ/レベル★)
- ・第3章 花もの(桜/レベル★★★)
- ・第4章 実もの(姫りんご/レベル★★★★)
- ・第5章 雑木(山もみじ/レベル★★)
- ・第6章 松柏(黒松/レベル★★★)
- ・第7章 変り種(苔盆栽/レベル★)

初めて盆栽に触れる人にとって学んでいただきたい順番にジャンルを並べていますが、それぞれの章は、独立した形で解説していますので、あなたが興味を持った盆栽から始めることができるように構成されています。

また、各章の植物について、盆栽の扱いやすさにしたがって、難易度を5段階で表しています(盆栽初心者の方を対象にしていますので、レベル5の盆栽は紹介していません)。その難易度を目安にすれば、比較的楽に盆栽を始めることができますでしょう。

しかし、本書で紹介するレベル★★★★の盆栽だといっても、それほど心配する必要はありません。本書は、初めて盆栽に触れる人を対象に作られていますので、高いレベルの盆栽であっても、本書の通りに盆栽を扱えば初心者でも失敗しないはずです。

やさしいレベルの盆栽から順番に始めてもいいですし、いきなりレベルの高い盆栽に挑戦してみるも面白いでしょう。

本書では、すべての盆栽を扱う際に最低限知っておいてほしい基礎知識を第1章にまとめました。

各章に共通する基礎の部分抜き出して解説していますので、盆栽を実践する前に目を通しておくとよいでしょう。

また、本書では、盆栽初心者の方が混乱しないように、第2章～第7章の実践方法を、それぞれテーマを決めて1種類のやり方で説明しています。

本書の使い方

そのため、ある章で紹介している盆栽テクニックが、ほかの章の植物にも使えるものが、たくさん隠れています。

最初は、本書に書かれている通りに、盆栽を扱ってみてください。そして、盆栽との付き合い方に慣れていったら、ほかの章で紹介している方法を応用して使ってみてください。

本書は、盆栽初心者向けのマニュアルであると同時に、盆栽テクニック事典でもあるのです。

気になることがあれば、何度でも本書と向き合ってみてください。

きっと、あなたが探している答えのヒントが見つかるはずです。

目次

本書の使い方	2
--------------	---

序章 私の盆栽に対する考え方

藤田流盆栽によろこそ	10
■日本人の私が盆栽と出会ったのはアメリカだった	10
■before BONSAI と after BONSAI	12
藤田流盆栽のポイント	14
■BONSAI is easy	14
■藤田流盆栽のルール	15
■藤田流盆栽 4つのメソッド	16
■藤田流盆栽 日常の楽しみ方	21

第1章 藤田流盆栽基礎の基礎

盆栽の基礎を学ぶ	24
■盆栽を始める前に知っていてほしいこと	24
■盆栽に適した土の基礎	26
盆栽の基本作業を学ぶ	34
■古い土の取り方と根の切り方の基礎	34
■器への土の敷き方の基礎	35
■素材の配置の仕方の基礎	36
■土の入れ方の基礎	37
■苔の張り方の基礎	38
■水やりの基礎	40

第2章 草もの

魅力を学ぶ	42
■草もの盆栽の魅力	42

目次

■シノブの面白さとは？	42
準備を学ぶ.....	43
■用意する素材	43
■用意する器・材料.....	44
■用意する道具	45
■藤田流の盆栽イメージ	45
植え方を学ぶ.....	46
①根のチェックと根切り.....	46
管理方法を学ぶ.....	50
■日常管理のポイント	50
■季節別の管理のポイント	51
■こんなミスに注意	52
■気をつけたい病気&害虫	52
楽しみ方を学ぶ.....	53
■藤田流 お勧めの改作法	53
■藤田流 さらなる楽しみ方.....	54

第3章 花もの

魅力を学ぶ.....	58
■花もの盆栽の魅力	58
■桜(旭山)の面白さとは？	58
準備を学ぶ.....	61
■用意する素材	61
■用意する器・材料.....	61
■用意する道具	64
■藤田流の盆栽イメージ	66
植え方を学ぶ.....	67
管理方法を学ぶ.....	76
■季節別の管理のポイント	78
■こんなミスに注意	80
楽しみ方を学ぶ.....	83
■藤田流 お勧めの改作法	83
■藤田流 さらなる楽しみ方.....	84

第4章 実もの

魅力を学ぶ.....	86
準備を学ぶ.....	88
■用意する素材	88
■用意する器・材料.....	88
■藤田流の盆栽イメージ	92
植え方を学ぶ.....	93
管理方法を学ぶ.....	99
■季節別の管理のポイント	101
■こんなミスに注意	103
■気をつけたい病気&害虫	104
楽しみ方を学ぶ.....	105
■藤田流 お勧めの改作法	105
■藤田流 さらなる楽しみ方.....	106

第5章 雑木

魅力を学ぶ.....	108
準備を学ぶ.....	110
■用意する素材	110
■用意する器・材料.....	110
■用意する道具	113
植え方を学ぶ.....	115
管理方法を学ぶ.....	122
■季節別の管理のポイント	124
■こんなミスに注意	126
■気をつけたい病気&害虫	127
楽しみ方を学ぶ.....	128
■藤田流 お勧めの改作法	128
■藤田流 さらなる楽しみ方.....	131

第6章 松柏

魅力を学ぶ.....	136
■ 松柏盆栽の魅力	136
■ 黒松の面白さとは?	137
準備を学ぶ.....	138
■ 用意する素材	138
■ 用意する器・材料.....	138
植え方を学ぶ.....	143
管理方法を学ぶ.....	150
■ 日常管理のポイント	150
■ 季節別の管理のポイント	152
■ こんなミスに注意	154
■ 気をつけたい病気 & 害虫	156
楽しみ方を学ぶ.....	158
■ 藤田流 お勧めの改作法	158
■ 藤田流 さらなる楽しみ方.....	163

第7章 変り種

魅力を学ぶ.....	166
準備を学ぶ.....	168
■ 用意する素材	168
■ 用意する器・材料.....	168
■ 用意する道具	169
■ 藤田流の盆栽イメージ	170
植え方を学ぶ.....	171
管理方法を学ぶ.....	175
■ 日常管理のポイント	175
■ 季節別の管理のポイント	176
■ こんなミスに注意	177

目次

■ 気をつけたい病気 & 害虫	177
楽しみ方を学ぶ.....	178
■ 藤田流 お勧めの改作法	178
■ 藤田流 さらなる楽しみ方.....	178

終章 次なるステップへ向けて

本書をお読みいただきありがとうございました。	182
■ この教材以外の素材と付き合いには	182
■ 藤田流の盆栽ライフスタイル	183
藤田は海外に飛び出します	184
■ 私が海外に再び飛び出すことを決めた理由	184
著作権について.....	186
使用許諾契約書.....	186



序章 私の盆栽に対する考え方

藤田流盆栽によろこそ

■日本人の私が盆栽と出会ったのはアメリカだった

本書をお買い上げいただき、ありがとうございました。

私は、1989年、縁があってアメリカ フロリダのディズニーワールドで働くことになりました。

そのとき働いていた場所が、ジャパンパビリオンの盆栽セクション。

日本人でありながら、今まで触れ合うことがなかったのに、遠い異国の地で盆栽と出会ったのです。

このとき初めて知ったのですが、盆栽は、英語でも「BONSAI」と呼ばれている世界共通の単語だったのです。

ディズニーワールドは、世界中から観光客が訪れる1年中お祭りをしているようなところですが、このジャパンパビリオンにも多くの外国人(日本人から見ればアメリカ人も外国人です)観光客が、やってきました。

そして私は、多くの外国人観光客が「BONSAI」に興味をもち、「BONSAI」を知っていることに驚きました。

そして、盆栽を見て「Cool」「Magic」「Beautiful」と感動している外国人の姿を見て、日本人である私は外国(アメリカ)で、その魅力に初めて気づかされたのです。

その後、日本に帰国した私は、サラリーマンをしながら、1992年、盆栽の会社を立ち上げました。

そして、縁があって表参道の現在の表参道ヒルズの向かい側に、盆栽のお店を出したのです。

こんなおしゃれの最先端に行く場所で、どちらかというと古臭いイメージを持つ日本人が多い中で、若者の街の表参道に盆栽のお店ができた、ということで私のお店は多くのメディアで紹介されました。

また、このお店で、私はミニ盆栽を中心に扱い、当時の「和」ブームの最先端をいく道先案内人として、今まで盆栽とは縁がなかった若い人たちに「BONSAI」の魅力を紹介していったのです。



そして、21世紀を迎えた2001年、東京・恵比寿に世界初の盆栽バー「盆さいや」をオープンして、「BONSAI」と一緒に暮らす、より新しいライフスタイルを多くの人たちに伝えています。

このお店には、多くの芸能人の方々にも来店して頂いたり、各方面の業界の最先端を走っている感度の高い人が集まるスペースとして活用して頂いてます。

そのような出会いの中で、私も盆栽ライフスタイルの新たな刺激をもらって、それを多くの人たちに伝えてきました。

その中で、興味を持っているけど、盆栽の始め方がわからないという人が大勢いることを知り、盆栽教室を始めたのですが、教室を始めていくと、東京の教室には来られないけど盆栽を学びたい人が、まだまだたくさんいることがわかり、本書を出版することにしました。



今、本書を手にとっているあなたも、そのお1人ではないでしょうか？

本書は、私が行っている盆栽教室で教えてきたことをベースに、誰でも簡単に盆栽を始めることができるハウツーのエッセンスをすべて入れ込んだマニュアルです。

この本を読みながら、実際に盆栽作りを始めれば、何も戸惑うこともなく、簡単に盆栽ワールドに入ることができます。

もちろん、盆栽を始めるために必要な道具や素材をそろえる方法から、日常の管理のポイントまで、紹介していますので、ご安心ください。

■before BONSAI と after BONSAI

私が盆栽と出会って、大きく変化したのは、自分の感性です。

それまであまり感じていなかった自然への意識が、盆栽を知ることによって、どんどん意識が高まってきたのです。

それは、大自然のすばらしさを感じるということだけでなく、

都会の中の小さな自然(緑)にすぐ目がいたり、

歩道の脇から生えてきた小さな植物の命を感じられるようになったこと。

小さな盆栽の作品の中には、大自然のすべてが収めれており、

また、長い年月とともに成長していった姿に、時空を越えた宇宙を見ることができます。

そんな小さな大自然と毎日向き合っていると、自然と無機質な都会の中に隠れている、小さな大自然に目がいてしまうのでしょうか。

また、盆栽は、観葉植物や園芸とは違い、何年もの長い間付き合っていくもの。その長い年月の間には、毎年四季が訪れ、それぞれの季節感を盆栽の中に感じることができます。

そのような付き合い方をしていると、都会であろうと、まわりの風景の中に吹いてくる風の匂いに、季節を感じられるようになったのです。

それは、私だけの話ではありません。

こんな経験、盆栽を始めたら、あなたも味わうことができるのですよ。



藤田流盆栽のポイント

■ BONSAI is easy

「盆栽」って言葉を聞くと、「年寄りくさい」「難しそう」「ルールとかが厳しそう」という意見をよく耳にします。

私も、アメリカで盆栽と出会う前はそうでした。

しかし、今、若い人たちを中心に、盆栽は、おしゃれなライフスタイルの代名詞の1つとして根付いています。

インテリアとして楽しんでいる人、アート作品として楽しんでいる人、自分の家にあるもの言わぬ友人として付き合っている人・・・、盆栽の楽しみ方は人それぞれ。

藤田流の盆栽もそれは同じ。

器の中に入った小さな自然は、あなたのそばに置いておくだけで、部屋の雰囲気落ち着き、和んできます。

盆栽は、お日様と水があれば大丈夫。

そんな最低限の管理をするだけで、この小さな存在と、誰でも簡単に付き合うことができます。

もちろん、人によって、性格やライフスタイルが異なりますから、誰もがすぐに盆栽ライフを満喫することができず、時には悩んでしまうこともあるでしょう。

私だって、今までたくさんの盆栽を枯らしてしまいました。

でも、それは藤田流のボンサイアートを築き上げるために必要な経験だったと思っています。

初めての方は、最初は小さく、ゆっくりと、盆栽と付き合いえばよいのです。

そして、四季それぞれの季節を感じてください。

その付き合いが続いていくことによって、盆栽のすばらしさ、そして、自然のすばらしさを実感していくのです。

盆栽の扉は、いつでも、誰でも開けることができます。
さあ、これから、すてきな盆栽ワールドの扉を開けてみましょう。

■ 藤田流盆栽のルール

● 盆栽にはルールがいない

冒頭のプロフィールの部分で書いたように、私は、アメリカのディズニーワールドで盆栽と出会い、そこで独学で学んでいったので、どこかの学校に通ったとか、有名な盆栽の先生に師事したということはありません。

もちろん、いつもお付き合いをしている園主さんをはじめ、多くの先輩から貴重なアドバイスももらったことはあります。

反対に、盆栽教室の生徒さんやお店のお客さんなど、盆栽を知らない人から学ぶこともあります。

そのような経験から、「盆栽には、特別のルールがない」と私は思っています。

とって、昔から続いている伝統的な盆栽のやり方を否定しているのではありません。

それはそれで、とても大切なことです。

でも、盆栽初心者にとって、そのような難しいルールを最初から行うのは大変なこと。

それよりも、盆栽の楽しさを実感してもらうことのほうが大切だと、私は考えています。

● 盆栽の本当の楽しさを知ってほしい

盆栽は、生きている植物と付き合うことです。

それも、木の種類によっては、私たちの人生よりもはるかに長い、何百年も長生きをしている命と付き合うことになります。

そんな大切な命を、守り、育てていくことは、とても楽しいことです。

そんな盆栽は、長く生きているものほど価値が高く、盆栽市を訪れると、初心者の人は目を丸くしてしまいます。

でも、そのような盆栽も、最初は小さな苗木でした。

それを、ゆっくりといねいに育て上げていくことによって、とても高価な作品になったのです。

そのチャンスは、あなたにもあります。

あなたが苗木から育て上げた1つの盆栽が、将来、すごく高価な財産に成長していくこともありえるのです。

そのような1つの作品を極めていく世界とは別に、盆栽には、コミュニケーションのツールとしての楽しみ方があります。

たとえば、あなたが育てた盆栽を株分けして、それを人に差し上げれば、新たなコミュニケーションの輪ができあがります。

そのような輪は、徐々に広がっていき、あなたが普段の生活では出会えなかったような人とも仲よく話ができるチャンスも訪れてくるのです。

世代間や生活エリア(テリトリー)外の人とのコミュニケーションは、あなたに今まで得られなかった刺激を与えることになるでしょう。

そんな出会いの輪を広げることも、盆栽の楽しみ方の1つなのです。

■ 藤田流盆栽 4つのメソッド

先ほど書いたとおり、藤田流の盆栽は、既存の伝統的な盆栽の世界にとらわれず、自分の感性にしたがって盆栽を楽しむことが基本です。

そのため、古くからの盆栽の世界では非常識なこととされているものでも、藤田流なら「どうぞ、おやりください」と勧めているものがあります。

私が盆栽で積極的に勧めている代表的なものをお伝えしましょう。

① ミニ盆栽の普及

現代生活にフィットとした、ミニ盆栽を提供し続けている私としては、盆栽初心者の方々に、もっとミニ盆栽を親しんでいただきたいと考えています。

ミニ盆栽は、インテリアとして存分に楽しめる新しい盆栽です。
その分、楽しみ方は千差万別。
あなたの感覚で、いろいろな楽しみ方を見つけることができます。

また、扱う植物によって作品のカラーも大きく変わりますので、きっと、あなた流の楽しみ方が見つかるはずです。



② 樹木盆栽の世界観を伝えたい

前にも書きましたが、盆栽は、小さな器の中に大自然を収めたものです。
そして、山や森に出かけて見た大自然の風景を再現させていく醍醐味を感じさせてくれる盆栽は、やはり、樹木の盆栽になります。

樹木の盆栽は、小さな器の中に、あのとき見た風景をそのまま切り取ってきたかのような世界観を生み出すことができるのが楽しいのです。

また、雑木もの(花もの、実ものを含む)の盆栽では、その小さな大自然の中で四季の変化を堪能することができるのも魅力的。

毎日の変化を眺めているだけで、都会の中でも、素晴らしい日本の四季を味わうことができるのです。



③盆栽をインテリアとして楽しむ

藤田流盆栽では、盆栽を自分の身近な場所で楽しんでもらいたいと考えています。

そのように自分の生活の一部として盆栽と付き合い、お勧めしたいのが盆栽インテリア。

大きな盆栽をオブジェとして配置するもよし、ミニ盆栽をインテリアのアクセントとして使うもよし。

自分の生活環境の一部に盆栽があると、部屋の空気感が変わったり、どこかさわやかな風の感覚と、緑のなごみ感が、あなたを癒してくれるでしょう。



④盆栽ギフトの楽しさを伝えたい

自分ひとりだけで盆栽を楽しんでいるのはもったいない話。

あなたが育てた盆栽を、家族や友人、知人に贈る盆栽ギフトをぜひお勧めします。

意外に思われるかもしれませんが、私のネットショップでは、盆栽のギフトが盛んに行われ、しかも、贈られた人からもお礼のメールをよくいただいています。

今は、ミニ盆栽がありますので、誰でも手軽に盆栽を贈ることができますし、会えない人へも、宅配業者に頼めば発送することができます。

誕生日や母の日、父の日など、何かの記念日に、盆栽を贈ってみてはいかがでしょうか。

もちろん、あなたが作った作品であれば、もらう人の感激もひとしおです。

そんな盆栽ライフを満喫している人、最近は、けっこう増えているのですよ。ぜひ、お試しください。



■ 藤田流盆栽 日常の楽しみ方

普段の生活の中に、盆栽と付き合う時間を組み込むと、どこか生活に潤いを感じられるようになります。

藤田流盆栽の楽しみ方は、いろいろありますが、ちょっと楽しい盆栽ライフをいくつか紹介しましょう。

① 玄関に飾る

毎朝、通勤や通学をするときに通る玄関は、1日すごす気分が大きく影響を与えます。

そこでお勧めしたいのが、玄関に盆栽を飾ること。

入り口の玄関に緑を置いておくだけで、1日の生活に潤いが出てきます。

また、玄関に飾った盆栽によって家族間の会話もふくらみますし、こころの癒しにもつながります。



②盆栽と散歩する

ミニ盆栽なら、あなたの行動に合わせてどこへでも持ち歩くことができます。

その1つの楽しみ方としてお勧めしたいのが、盆栽との散歩。

ミニ盆栽を小脇に抱えて散歩をし、公園などに出かけたら、ベンチに座って盆栽をゆっくり日光浴させてあげましょう。

風景が変わるだけで、普段見なれている盆栽の姿も、何か新鮮さを感じられます。

その散歩で、盆栽の風景を、携帯のカメラで撮影をして成長を記録しておく、後から振り返って楽しむこともできます。



③盆栽とお風呂に入る

ミニ盆栽なら、あなたの行動とともにどこへでも持ち歩くことができます。

先ほどは、盆栽を連れて散歩(日光浴)をする楽しみを紹介しましたが、今度は、多くの方が一番くつろげるお風呂に盆栽と入ることをお勧めします。

湯船につかりながら盆栽を眺めると、まるでミニ野天風呂。

普段は殺風景な風呂場に緑があるだけで、とても安らぎを感じます。